

令和3年度（2021年度）第7回教育委員会（10月定例会）議事録

- 1 日時 令和3年（2021年）10月5日（火）
午前9時30分から午前11時10分まで
- 2 場所 教育委員会室（県庁行政棟新館7階）
- 3 出席者 教育長 古閑 陽一
委員 木之内 均
委員 吉井 恵璃子
委員 田浦 かおり
委員 田口 浩継
委員 西山 忠彦
- 4 議事等
 - (1) 議案
議案第1号 令和3年度（2021年度）熊本県教育功労（優秀教職員）表彰について
議案第2号 令和4年度（2022年度）教職員異動方針について
議案第3号 熊本県立美術館協議会委員の改選について
議案第4号 熊本県いじめ防止対策審議会委員の任命について
議案第5号 熊本県立図書館協議会委員の任命及び解職について
 - (2) 報告
報告（1） 新型コロナウイルス感染症に対する県教育委員会の対応について
報告（2） 6月定例県議会における教育委員会に係る一般質問及び答弁について
報告（3） 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果分析による今後の学力向上に向けた取組について

5 会議の概要

- (1) 開会（9:30）
教育長が開会を宣言した。
- (2) 会議の公開・非公開の決定
教育長の発議により、議案第1号から議案第5号は人事案件のため非公開とした。
- (3) 議事日程の決定
教育長の発議により報告（1）から報告（3）を公開で審議し、非公開で議案第1号から議案第5号を審議した。
- (4) 議事
○報告（1） 「新型コロナウイルス感染症に対する県教育委員会のこれまでの対応及び今後の方向性について」

教育政策課長

教育政策課です。報告（1）「新型コロナウイルス感染症に対する県教育委員会の対応について」御説明します。

A3横の資料を御覧ください。前回の定例会では、資料左側の下段「8月24日」までの取組みについて御説明しましたので、本日は、その後の状況について御説明します。

まず、資料右側の「9月9日」ですが、点線の枠囲みにありますように、県立学校長あてに通知を發出しています。これは、本県に適用されている「まん延防止等重点措置」が9月30日まで延長されることとなったため、「8月24日」付けの県通知による対応を9月末まで延長することとしたものです。

次に「9月22日」ですが、県の新型コロナウイルス感染症対策本部会議において、本県への「まん延防止等適用措置」が9月30日で解除された場合、「熊本蔓延防止宣言」に基づく対策を終了し、10月1日から14日まで「医療を守る行動強化期間」として一部の対策を継続することが決定しました。これを受け、点線の枠囲みのおり県立学校長あてに通知を發出しています。

対応の内容ですが、原則、通常登校としています。次に、学習活動について、感染リスクの低いものから徐々に実施し、特に感染リスクの高いものは慎重に検討することとしています。修学旅行や学校行事等は、地域や学校の感染状況等を踏まえて、実施の可否を慎重に検討することとしています。部活動は活動を再開しますが、県外における練習試合等は当面禁止、公式大会は県外を含め参加可としています。

なお、「9月9日」及び「9月22日」とも、県立学校への通知と合わせ、市町村教育委員会に対しても同日付けで通知を發出していて、これらの通知文について2ページから9ページに添付しています。

次に、10ページをお願いします。「新型コロナウイルス感染症に係る感染者数について」御報告します。

まず、1は令和2年度と令和3年度の感染者数の比較で、今年度の9月までの合計が、一番右の総計671人となっています。

次に、2は今年の7月から9月の感染者数の比較で、9月は166人と、8月と比較して212人減少しました。

最後に、3の学校クラスターの一覧ですが、令和3年度は5校で発生、うち9月に中学校1校、高校2校の合計3校で発生しています。

事務局からの報告は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問等がありましたらお願いします。

木之内委員

重症化した子どもはいなかったのですか。

体育保健課長

体育保健課です。県立学校及び熊本市を除く市町村立学校の児童生徒における重症化の事例についての報告はありません。

吉井委員

令和2年度に八代の小学校でクラスターが発生した際には、ネットで誹謗中傷等あったようです。令和3年度は5件、クラスターが発生していますが、誹謗中傷等はなかったですか。

体育保健課長

体育保健課です。クラスターに関わる誹謗中傷についてですが、誹謗中傷で大きな事件が起きた、さらに誹謗中傷を受けた等の大きな報告はありません。

教育長

他はよろしいですか。

○報告（２） 「６月定例県議会における教育委員会に係る一般質問及び答弁について」

教育政策課長

教育政策課です。報告（２）として、「６月定例県議会における教育委員会に係る一般質問及び答弁について」御説明します。

趣旨としては、今後の教育委員会における議論の参考としていただくために、報告するものです。

報告（２）を御覧ください。６月に開催された県議会では、一覧表記載の質問項目について、別添概要のとおり質問があり、答弁しました。

教育委員会事務局としても、引き続き、県民の声に耳を傾け、教育行政の充実強化に取り組んでいきます。

報告（２）は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問等がありましたらお願いします。

田口委員

資料１７ページの（４）ヤングケアラーの支援について、知事の答弁では「県の調査を秋頃までに実施」と書いてありますが、今、どの段階でどれくらい分かっているのか状況を教えてください。

学校安全・安心推進課長

学校安全・安心推進課です。県としては、子ども家庭福祉課と連携のもと、９月いっぱいまでで中学２年生全体、高校２年生全体に実施しています。さらに、小学校については抽出した２０校、中学・高校は全ての学校に学校調査を実施するという形で現在集計を進めているところです。

教育長

他はよろしいですか。

○報告（３） 「令和３年度全国学力・学習状況調査の結果分析による今後の学力向上に向けた取組について」

義務教育課長

義務教育課です。報告（３）「令和３年度全国学力・学習状況調査の結果分析による今後の学力向上に向けた取組について」御報告します。

まず１ページ目を御覧ください。本年度の全国学力・学習状況調査の結果概要については、前回の９月定例会で御報告したところです。その際にも御説明しましたが、本県の子ども達の良かった点は、児童生徒質問紙では、「学校に行くのは楽しい」、「学校でＩＣＴ機器を、他の児童生徒と意見を交換したり調べたりするために使用している」と回答した割合が全国平均を上回っていました。この「学校に行くのは楽しい」については、様々な要因があると思いますが、一人一人の良い点等をほめる教員が、本県には多いことが関連していると考えられます。また、新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた期間中、勉強について不安を感じたと回答した割合は、全国平均を下回っていました。こちらも休校期間中に様々なことに取り組んでいた学校が多かったこと等が関連していると考えられます。

続いて２ページ目は、全国学力・学習状況調査の結果で、平成１９年度からの

推移です。まず、小学校については、ほぼ横ばいの状況で全国平均レベルが続いています。続いて3ページ目の中学校については、平成19年度当時、全国を上回っていましたが、年を経るにつれて下降して、その傾向が現在も続いています。

4ページ目、こちらは県で実施しています学力・学習状況調査の結果分析で昨年度の結果です。小学校3年生から中学校2年生まで行っていますが、学年を経るごとに全国平均を100としたときの県の割合が下がっています。全国値を上回ったのが14教科中7教科です。

5ページ目は、県学力・学習状況調査の正答率3割未満の児童生徒の割合を示したものです。全体の平均正答率をそれぞれの学年の下に小さい数字で載せています。その正答率にもよりますが、小学校では3割未満の児童割合が少ないにもかかわらず、中学校1・2年生の数学では、1割や2割を超える生徒割合となっています。

6ページ目、再び全国学力・学習状況調査に戻りますが、授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできた児童生徒の割合です。小中ともに全国値より低いものの、全国との差は小さくなってきています。特に中学校では、本年度は大きな改善が見られたのではないかと思います。ただ、この質問を児童生徒に対して、またその教師に対して、同じように質問したところ、小学校では、児童77.2%の肯定的回答に対し、教師は88.0%。中学校では生徒77.8%に対し教師83.3%となっていて、児童生徒の認識と教師の捉えに、ずれがあるように思います。子ども達の学びの側に立った、単元を通した学習課題の設定が引き続き必要ではないかと考えているところです。

続いて7ページ目、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問です。前回と比較して、小学校では低下しています。中学校では改善傾向です。しかしながら、ともに全国値を大きく下回っている状況です。やはり、子ども達が発表する際は、自分の考えをノートにまとめて、話すことをきちんと論理立てて、整理することが必要かなと思っています。

8ページ目、課題の改善に向けた今後の取組みの方向性です。御説明した結果から見えてきた本県の課題として、正答率3割未満が中学校で増加していること、特に各学年において、身に付けるべき学力が身に付いていないことと捉えています。また、知識、技能を活用する問題の定着率が全国平均を下回っていること、読解力を伴う問題の無解答率が高いことも課題として挙げられます。

それらの課題の改善に向けた今後の取組みの方向性を大きく2つの柱に分けています。1つ目が「誰一人取り残さない学びの保障に向けて」ということで、定着確認の徹底、そして読解力向上の取組み実践を行っていきます。2つ目、「教員一人一人の授業力向上に向けて」に対しては、単元のゴールの姿に向けた授業構想と実践、家庭と連携した子ども自ら取り組む家庭学習の推進、「熊本の学び推進プラン」にも掲げていることをしっかりと行っていく必要があると考えています。

続いて9ページ目を御覧ください。こちらは本年度から取り組んでいる、「熊本の学びの推進を支え学力向上を目指すアクションプロジェクト」です。先ほど8ページ目で御説明したことと重なりますが、誰一人取り残さない学びの保障、また教員一人一人の授業力向上、こちらを各学校、各教員、一人一人がしっかりと行っていくこと、その積み重ねが、県全体の学力向上にもつながっていくのではないかと思います。

10ページ目、今年度の主な取組みです。いろいろな事業を掲げています。まず、県学力・学習状況調査。そして、「熊本の学び」スタートアップ研修。これは、昨年度約2000名弱の現場の先生に参加していただいて、今年度も行っているものですが、教育事務所、教育センター、また、本課の指導主事を各学校等に派遣し、教員一人一人の熊本の学びについての理解を含めて、実践を推進する研修です。また、教育センターの指導主事に協力いただいている、プッシュ型スクールサポート、教育事務所の指導主事が、支援を必要とする学校に対して行っている学校支援訪問、またその学力について課題意識を持ち、その課題を意欲的に向上させようと考えている地域に対しては、学力向上アドバイザー事業というものも実施しています。これらの取組み、情報交換も各機関で行っているところですので、有機的に関連づけて、より効果のある取組みとしていきます。

11ページ目、今年度の全国学力・学習状況調査における課題の改善に向けたその具体的な取組みです。学校の取組みを支援する全国学力・学習状況調査、分析資料の提供です。それぞれの問題の分析は、これまでも県教育委員会で行っていたところですが、各学校でその課題は様々ですので、各学校でそれぞれがその分析に取り組むための方法や手順を明示し、また校内研修ですぐに活用できるシートというものを、今年度から新たに提供しようと思っています。こちらの資料は、近日中にホームページに掲載する予定です。

また、本県の大きな課題である中学校数学については、早急な改善の取組みが必要と考え、本県中学校全数学担当教員等を対象に、文部科学省教科調査官による研修を実施します。こちらは本日の午後、オンラインで結んだものです。まずは、これらの取組みを通して、2カ月後に差し迫っている12月実施の県学力調査で、一人一人の子ども達が昨年度より伸びることをしっかりと押さえていきたいと思えます。

御参考として、本年度の全国学力・学習状況調査の中学校3年数学の冊子をお配りしています。まず1ページ目、これは計算問題です。その次の2ページ目からは、計算問題はなくなり、文章問題が4問ほど続きます。7ページ目からは、読解力が必要となる問題が続きます。一問の問題を解くにあたっては様々な情報が出てきていますので、解くにあたって必要な情報を取り出して、それらを組み合わせ、答えを導き出す力が必要となります。そのため、授業や各学校の先生が作成する定期テストにおいて、単純なドリルの問題を出しているだけでは、全国学力・学習状況調査のこれらの問題の正答率を伸ばすことはできません。また、この全国学力調査の問題を解くことが目的ではなく、やはり社会を生きていくにあたっては、単純な問題はなかなかないわけで、いろいろな情報から目の前の課題を解決するために必要な情報を取り出して考えるという、まさしくこの全国学力・学習状況調査で、問われている能力が必要となってきます。これらの取組みを通じて、子ども達が自立して生きていくための力を、義務教育段階までにしっかりと身に付けさせることを行っていきたいと思えます。

報告は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問等がありましたらお願いします。

西山委員

最後に御説明いただいた数学のテストについては、解答版はあるのでしょうか。例えば、この問題用紙が生徒の手元にあるか分かりませんが、受けた生徒が正解の解答が分かるような冊子か何かあるのでしょうか。

義務教育課長

冊子はありませんが、国立教育政策研究所が作成しています解説資料で、問題の解き方や正答は公表されているところです。

西山委員

それは、生徒が気軽に見ることができるのですか。

義務教育課長

ホームページに載っていて見ることはできますが、各学校の先生が、この問題の解説をしっかりと行うことが重要であると考えています。

西山委員

学校の先生が全部、学校でもう一度おさらいされるのでしょうか。

義務教育課長

各学校によりますが、調査問題で明らかとなった課題に応じた指導というのは、各学校で行っていただいていると思います。

西山委員

全国学力・学習状況調査問題ですけれども、やはりテストの後は、自分で確認して、自分が間違ったところはもう1回勉強し直してほしいと思います。P D C Aの中のチェックアクションの流れがあるのか、あるいは、例えばI C T教育に全国で力を入れている中で、W e bで全部この解答を説明してくれるようなものが欲しいと思います。それが全国なのか熊本なのかは別にして、受ける側からしたら受けっ放しでは面白くないでしょう。どこが間違ったのか、間違った理由は何だったのかをはっきりさせて向上させていければと思います。学校でおさらいするだけでなく、自分でも間違っていた10問目のところの解説をしっかりと勉強する等の仕組みを作っていただくと、大変ありがたいです。

教育長

他はよろしいでしょうか。田浦委員お願いします。

田浦委員

文章題は、子どもにとって非常に敷居が高いと思います。読解力に対しては、答えるのに論理的な思考力も必要だと思います。そして、その解き方にパターンがあり、たくさん取り組むことも必要だと思うので、家庭学習とリンクさせていただいて、定着させるために、先生から類似の問題をいくつも出すというようなことをしていただくとありがたいです。

義務教育課長

やはり、授業だけで定着させることも難しいかと思います。家庭学習と学校での学習、そのサイクルをしっかりと作ること、そのためには、学校の先生が授業の内容に応じた、家庭学習の課題を適切に出すことが極めて重要かと思います。「熊本の学び推進プラン」でもうたっていますが、もう少しその点をきめ細かに実施しているかどうか調査して、必要な支援・指導を行っていきたいと思います。

木之内委員

例えば、小中学校で塾に通っている児童生徒がどのくらいかはっきり分かりませんが、塾に通えていないから差があるかどうか、その辺もある程度リンクして考えなければならぬと思います。本来、学校だけで学べるようになるのが一番良いとは思いますが、その辺りのデータや関連性みたいなものを調べていたら教えていただきたいと思います。

義務教育課長

委員御指摘の通塾率とこちらの学力調査の結果との関係について、分析はして

いません。ただし、中学校の全国学力・学習状況調査の地域別結果を分析している中では、塾が多い中心部等と山間部に差が出ているということは、傾向としてはあまり見られません。それよりも、塾等がほとんどないだろうと思われる地域でも、先生が子ども達の課題に応じた指導、習熟度別での指導、家庭学習を丁寧に見ているところはしっかりとした成果があげられていると分析しています。

木之内委員

私の孫は波野にいますが、人数が少ないので、とても丁寧に見てもらっています。塾はありませんが、やはり丁寧に見てもらっていると、自然にある程度上がります。市内方面は人数が多いので、先生方にも当然限界があって、なかなか一人一人思っているもできなかつたりすると思います。仮に、丁寧にやることを塾で補っているのかどうかわかりませんが、やはりその辺りからもう一つの課題を考え、学校として課題を解決していく何かツールみたいなものがあるのかなという気がします。良い悪いは別として、例えば、経済的に塾はどうしても通えないような子どもを中心に、なかなか成績がうまく伸びないことがあるのか等の部分も、特に注意しないといけないかと思えます。だからといって、そういう子だけを集めて教えていいのかという問題もあるとは思っています。やはり、環境による差と先生の対応みたいなことについて、どのようにやるかを考えること、一番問題が起きないか、総合的に学力が上げられるかということ何か検討した方がいいかと漠然ですが思っています。機会があれば、その辺りを見てもらえると、例えば、郡部の学校とマンモス校との違いから逆に見えてくることもあるかと思いました。

義務教育課長

地域の状況や学校規模の状況で、何かしらの差はあると思えますので、それぞれの各学校が置かれている環境に応じた対策というものは、もう少し考えてみたいと思います。そして今、御指摘がありました家庭の経済状況等の学力については、いろいろな調査研究で大きな関連があるということが出ています。文部科学省が大学に委託して行った全国学力・学習状況調査の結果についても、一部の保護者に対して、その家庭の保護者の学歴や世帯年収、教育に対する考えを聞いて、その結果とその保護者の子どもの学力調査の結果を結びつけて分析すると、世帯年収が上がるほど、子どもの平均正答率は上がっているということが出ています。また、ある機関の調査では7歳や9歳、小学校低学年時点で、子どもの学力が、家庭の経済状況によって差が出ています。

本県においても、退職の教員やボランティアの方々に御協力いただいた地域における学習教室みたいなものは、県や各市町村で行っているところです。各学校と地域の力もお借りして、子ども達が自分ではどうしようもならない環境によって、将来の選択肢に差が出ないように、行政として知事部局とも連携した取り組みが必要かと思っています。取り組みについては、今知事部局とも検討しているところですので、そのような結果に応じた対策を、本県としてもしっかりと行っていきたいと思えます。

木之内委員

今おっしゃったとおり、かなり初期の段階で差がついている気もします。そうするとやはり、子ども達にとって本当に平等にチャンスがあるような状況になっていくためには、何に力を入れるのか。選択肢として変わらなくなるのかということ等を是非検討していただけたらと思います。

田口委員

関連してですが、朝ご飯と学力の関係や、キャンプに行くことと学力の関係に

については、相関関係があるのか、ということがよく言われていました。しかし、それは結局、親の年収や教育力との関係が一番強く学力が左右されてしまうという現状が、かなり前からあったと思います。そのあたりについて、是非県でもどうにかしていただきたいというところです。

以前、地域学校協働活動推進員の活動の様子を見に行かせていただきましたが、益城の小学校で九九を習いたての子ども達に、ボランティアの方々、おじいちゃんおばあちゃん達がかなりたくさん来られていました。子ども達は、今覚えたことをそのおじいちゃんおばあちゃんの前で発表して、上手くいったら印鑑をもらって次のステップに進むというようにされていました。裕福な家庭や教育熱心なところは、家でそれが実現していたと思います。そうではない家庭においては、誰にも自分の覚えた九九を聞いてもらえない。そのようなところからも差が生まれてきているのではないかと思います。そういう活動を是非これまで以上に支援していただければと思います。

それから塾に行くか行かないかについて、今年度から美里町で公営の塾をスタートされました。二つの中学校で週2回、熊本大学の学生が出向いて授業を担当していますが、彼らによると、とても良い子達だけれども、高校入試についてあまり意識していないように感じるそうです。自分は勉強しなくても高校に行ける、誰それもそういう感じで高校に行っている等で、なかなか学ぶ意欲につながっていない。さらには、大学や大学生に対するイメージがほとんどないということでした。何かもう少し刺激と言いますか、ここでこのように頑張れば、次にこのような学びの場が提供できる、さらには自分の努力次第でこのようなこともできるようになるというような、その辺りの思い描きがどうしても市内の小中学生と郡部の小中学生は違うように感じました。私自身、天草の田舎育ちですが、小学校時代に熊本大学の青い鳥というグループが来て劇をしてくれて、大学生はこんなことをやっているのか、なんか楽しそうだとすごく身近に感じたことがありました。そのような刺激については、どうしても差がついてしまうように思いますので、それを埋めるような何らかの手立てを県でも講じていただけるとありがたいと思います。

義務教育課長

今おっしゃったこと、確かにそのとおりだと思います。各学校の子ども達の話在市町村教育委員会や教育事務所関係者から聞きますと、自分たちの身の回りの先輩が、あまり勉強していなくて高校に進学している状況ですと、勉学に対しての意欲がどうしても高まり切っていないということです。また、身近にロールモデル・憧れのような存在が、市内と山間部では差があるのかなと思います。一義的には学校の創意工夫かと思いますが、オンライン等もありますので、県においても、環境によって子ども達の学びに差が出ないようできることを考えていきたいと思います。

吉井委員

5 ページにあります県学力・学習状況調査の結果報告の3割未満の生徒さんが、中1、中2で増えているグラフがあります。その次のページを見ますと、課題として、各学年において身に付けるべき学力が身に付いていないというのがあります。一つ基礎を学び損ねるとそこからどんどんつまづいていって段々意味が分からなくなるというのがよくある形で、3割に満たない生徒さんに、基礎を教える時間があるときっと伸びていくのではないかと思います。成績上位の子を伸ばそうと思ってもなかなか難しいですが、成績不振の生徒さんを教えることで、点数

はきっと伸びていくと思います。それによって、平均点も上がっていきませんが、何より成績不振の生徒さんの自信につながるとと思います。様々なことに対して自分もひょっとしたらやればできるという気持ちに是非つなげて欲しいので、ここは集中するというわけではありませんが、どこが分からないかを探していただいて、そこを徹底的にケアする時間が、果たして学校にあるかなと思いました。学校では、学校の進み方があるわけで、その時間とは別に何とか成績をフォローする時間を作っていただくと、この生徒さん達も伸びていかれるでしょうし、それこそ先ほどおっしゃった選択肢も広がっていくと思います。あとは、部活や授業もある中で、この生徒さん達にどのようにフォローできる時間を作っていくかで、学校に負担をかけることになっていきますが、頑張っただけだと思います。

義務教育課長

今、委員がおっしゃったとおり、勉強というものは学校生活の大きな割合を示しますので、ここで分からない、できないとなると、どうしても自己肯定感や自信の伸びにつながっていかないということはあるかと思っています。そのためにはやはり基礎・基本の定着をしっかりと行うこと。ただ、先生方も非常に多忙ですので、新たな時間を生み出すことは、なかなか難しいと思います。そのためにやはり、習熟度別授業や補充学習等を、もう少し各学校で進めていただくことが必要かなと思っています。子ども達が分からないまま進み、それに対して先生が必要な手助けができないということは、分からないままでもいいという誤ったメッセージを子ども達に伝えていることにもなっているのではないかと思います。子ども達ができているということに対して、しっかりとフォローをする、次の学びにつながる指導を行っていく、限られた資源ですけれども、公教育としてももう少し方策を練って、実際の行動に移していかなければならないのではないかと思います。

西山委員

もう一度繰り返しになりますけれども、今までのお話の中で、先ほどの全国学力・学習状況調査の解答例や解説例等を作られるお考えはないでしょうか。できればWeb等でみんなが見られるようにすれば、その繰り返しが学力向上につながっていくのだと私は思っています。調査をやりっ放しというのは良くないし、そのデータを見て、学校の先生に任せているというのも、それはそれでありがたいことですが、やはり自分でここはよく分からなかった、例えば、全問題の中の、この問題がわからなかったということで、Webで確認してその問題をしっかりと勉強すること、その積み重ねが、学力向上につながっていくと思います。そのための解説集、解答集を熊本県で作られるお考えはございませんか。

義務教育課長

今御指摘のとおり、学力調査に限らず定期テストもそうですけれども、評価するだけにとどめず、ここで見つかった課題というものを、しっかりと克服して次につなげていくことが大事だと思います。そのためには、子どもたち一人一人が問題を解き直し、復習を行うことが大事だと思います。その方策としての解説資料を県教育委員会で作るのがいいのか、または、各学校の先生は忙しいですが、現場レベルで作っていく時間を設けた方がいいのかということは、検討させていただければと思います。やはり学校の先生以外が作ったものは、配布するだけになったり、各学校がどうしても受動的になってしまったりする面も否めないのではないかと思います。我々が今回、各学校の分析資料を提供したのも、各学校がもう少し主体的に、それぞれの問題について分析して、その受け持つ子どもの状況を一番よく分かっている先生が、問題で問われていることと子ども達の解答の

分析をしっかりと有機的につなげて、自分の指導で、足りないところは何なのかということを考えていただくきっかけにしたいということも目的としています。各学校の負担と効果的な指導等、いろいろな検討要素があるかと思います。そこらをしっかり分析した上で、必要な対策を行っていきたいと思います。

西山委員

今おっしゃったとおりでいいと思います。各学校の先生が一人でできない部分、その仕組みをぜひ作っていただきたいと思います。それを生徒が自主的に覗きながら、「この10番の説明を聞いたけれどもよくわからないので、先生もう一度教えてよ」というような繰り返しになる仕掛けをしていただければありがたいと思います。先ほど教育の平等という話も随分ありましたけれども、やはりICTというのは平等だと思います。ICTの中身、インフラを整備していくといいなと思います。よろしくをお願いします。

田口委員

資料の中の誰一人取り残さないことについて、貧困の連鎖をぜひ断ち切るような取り組みをしていただければと思います。先ほどの美里町の公的な塾についても、遠方にある塾に通うことが叶わない子ども達をどうにかしたいというところで始められた制度のようでした。昨年度は球磨村の中学校に、熊本大学の大学生が遠隔で授業のサポートをしました。ICTを活用すると、その辺りを埋めることができると思います。県で今年から導入される予定の県立第一高等学校をキーステーションにして、地方の高校に授業を提供する、交流を持つというのがうまくいけば、それを他の高校や中学校等にも広げていっていただけるといいなと思いました。先日、福岡教育大学が主催する会議で、熊本県のICT教育について指導主事の先生が発表されていましたが、大変すばらしかったです。いろいろな取り組みをされていて、いろいろな方面でそれを使っておられると思いました。地方にいるなかなか勉学の意欲がわからない、勉学する機会が親の収入によって閉ざされている、そういう人たちも救ってくれるような取り組みに広げていただくことを願っています。

義務教育課長

ありがとうございます。熊本大学の学生の皆様は、県内各地の子ども達に対して、ボランティアで学習の指導支援を行っていただいておりますと、子ども達の声を聞いていますと、やはり歳の近いお兄さんお姉さんが丁寧に教えてくれて、分からなかったことが分かるようになった、受けるかどうか最初はちょっと逡巡していたけれども、思い切って学習会等に出てよかったという声を聞いています。ICTの活用についても、ハード面をここまで整備してきましたので、それらをうまく活用した取り組みを今後行っていき、子ども達が置かれている環境に応じて、また、環境で差がある場合は、そのICTをうまく活用して、子ども達の学びを充実させていきたいと思います。

田浦委員

先ほど、先生の指導力のお話をされましたが、このような調査を行った後、先生方は自分が教えている子ども達の結果を分析し、自分の指導力に対してどこが課題で、こういうふうにそれを修正していきたいということは、形として表されるのでしょうか。それとも胸に留めて置かれている感じでしょうか。

義務教育課長

こちらの結果はもちろんすべての学校にお返ししていますので、その結果に応じた指導の体制は行っていると思います。ただし、やり方が深か

ったり、浅かったりするという事は、正直あるかと思えます。そこを校長がしっかりと自校の教員が、結果を踏まえた指導につなげているかどうかというのを見ていただいて、足りない点があれば、指導していただくということが重要かと思えます。県の学力・学習状況調査では、子ども達は、毎年受けているので経年変化が分かります。そして、この先生が教えた子ども達の知識は伸びているが、活用は停滞している、一方こちらの先生が教えた子ども達の知識は停滞しているが、活用が伸びているということが分かります。先生によって、この先生が知識を定着させることに長けているのか、活用を伸ばすことに長けているのか、そういうことも分かります。先生方同士で長けている部分はさらに高めたり、足りないところは他の先生の指導を受けたりする等、この結果を十分に活用して御自身の指導につなげていただくことが重要なのではないかと思います。

教育長

資料の9ページに、まさに今日、委員の方々からたくさん御意見をいただいたことを、我々も同じ認識で、この「熊本の学び」アクションプロジェクトという形でまとめさせていただいています。本県の子ども達を誰一人取り残すことなく、しっかり学びを保障していきたいという、そのために二つの柱、いわゆる誰一人取り残さない学びの保障と、今お話がありました教員一人一人の授業力向上を柱にしています。また、個に応じた指導や読み書き計算の習得、お話に出ていました定着確認の徹底や、読解力向上の取組みの実践と、まさに委員の皆様方から御指摘があった点を重点取組みとし、これからしっかりと取組みを進めていきたいと考えています。

また、貧困の連鎖を学びで断つというお話がありましたけれども、我々も蒲島県政の中でそれを大きな柱の一つにしています。課長から説明がありましたが、現在、健康福祉部で生活保護世帯やひとり親家庭の世帯に対しては、地域で学習教室を開かせていただいていますし、県教育委員会でも社会教育課で同じような教室を開かせていただいていますので、今後はこの連携をより緊密に強化して、貧困の連鎖を学びで断つことができるように、その取組みの徹底をより図っていきたいと考えています。この学びについては、いろいろな形で教育委員会でも御報告させていただきながら改善に努めていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願ひします。

教育長

本日予定されました議事については以上のとおりですが、その他で何かありますか。

教育長

はい。ありがとうございました。

引き続き今後ともよろしくお願ひします。

6 次回開催日

教育長が次回の定例教育委員会は令和3年（2021年）11月2日（火）教育委員会室で開催することを確認した。開催時間は、午前9時30分から。

7 閉会

教育長が閉会を宣言した。午前11時10分。